

注意点1

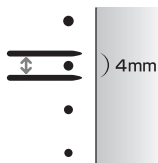


右手

豪快さと繊細さを両立させた
マシンガン・ピッキング

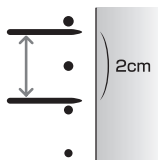
このメイン・フレーズで使用するマシンガン・ピッキングは、とにかく豪快に弾くことがポイントになる。しかし、ただ力任せに弾くのではなく、すべての音に同じ音圧感を出せるようにピックの振りに幅を付けなくてはならない。一般的な速弾きに適したピッキングは、無駄が少なく振りが小さいタイプになる(図1-a)。しかし、これでは音圧が出せない。それに対して、マシンガン・ピッキングは、ピックを両隣弦の間隔である約2cm幅のギリギリまで振るので、音圧をしっかり出せるのだ(図1-b)。しかし、この2cm間を行き来するための繊細なピッキング・コントロールが必要になる。じっくり練習して、必ずマスターしよう!

図1-a 一般的な高速ピッキング



無駄が少なくコンパクトな振りだが、音圧感が出せない。

図1-b マシンガン・ピッキング



ピッキングの振りが大きいので音に厚みが出せる。ただし、ピッキング・コントロールが難しい。

注意点2



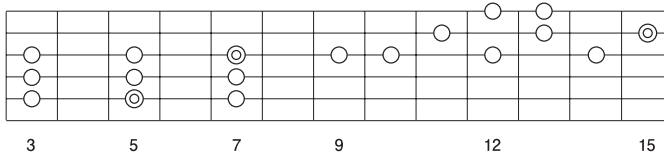
理論

指が自然に動くくらいに
ポジションを覚えておこう!

このメイン・フレーズは、Dナチュラル・マイナー・スケールによって構成されている。メタル系の上昇フレーズでは、このメイン・フレーズのように左手3本指を土台にしたポジションを多用するので、必ず頭と指に叩き込もう(図2)。また、1小節目～2小節目2拍目などのように1拍ずつ徐々に上昇していくリズム・パターンも王道的なフレージングになるので、しっかり覚えておいてほしい。このようなスピーディなフレーズでは、TAB譜を目で追って頭で理解しながら弾くよりも、指が自然に動いていくことが理想的だ。ゆっくりしたテンポでもOKなので、くり返し弾いて指に正確に馴染ませておこう!

図2 メイン・フレーズのポジション(Dナチュラル・マイナー・スケール)

◎トニック=D音



ポジションは細かく分けて覚えよう!

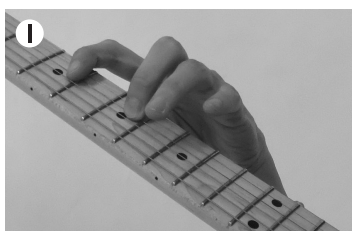
注意点3



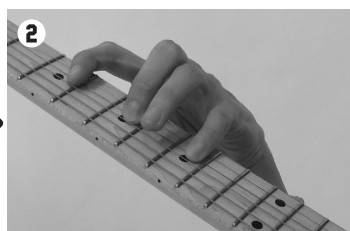
左手

小指の移動と同時に
人差指の押弦準備をすべし!

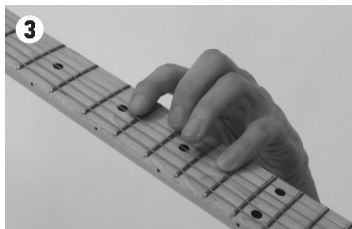
このメイン・フレーズを攻略するためには、3本指1セットのまま的確にポジション移動していく必要がある。特に2小節目3拍目～3小節目2拍目までの3弦上でのフレーズには注意が必要で、小指を先頭にして滑らかに横移動していこう。この部分をスムーズに弾くためには、小指の移動を素早く行なうことはもちろんのこと、小指の移動と同時にほかの指の押弦準備も行なうことが大切になる(写真①～④)。また、フィンガリングの先頭になる小指で押弦した音にアクセントを付ける【註】ようにすると、ポジション移動した感覚が明確になるので、テンポ・キープもしやすくなるだろう。焦らず落ち着いて弾いてみてほしい。



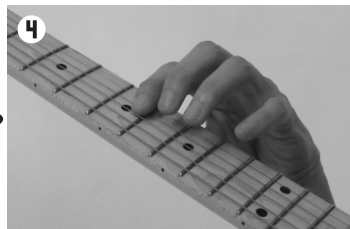
2小節目3拍目の中指による3弦7fの押弦時。



9fを小指で押弦すると同時に移動も意識しておこう。



小指を10fに移動。同時に人差指の準備をしておくと……



7fをスムーズに押弦できるのだ!

【アクセントを付ける】フレーズに強弱を付けないと、盛り上がりだけでなく、リズムや拍子も取りづらくなるのだ。TAB譜に表記された音を鳴らすだけでなく、細かいニュアンス付けにも注意しながら演奏してみたい。